

お茶会だより 12月号

矢野保育園 H29.12.27(水)

外は一面の雪景色。凜とした空気に身が引き締まる季節です。

「今年最後のお稽古ですわね」の先生の一言に、子ども達の背筋も自然と伸びていました。



☆ 掛け軸 「聖夜」

☆ お花 「ロウバイ」「ツバキ」

☆ 香合 「サンクローズ」

☆ お菓子 じゃじゃまんじゅ 「柘」

今月のお菓子は柘。木へんに冬の文字通り、冬に花をつけることから冬のイキジの植物ですが、子ども達にとってはあまりなじみがなく、自地のじゃじゃまんじゅりにセンクの点々、そして緑色の葉から連想されるのは「雪うさぎ」たふたふです。ヒラギ、という響きにセンと似たくとも「クリスマス

の葉」と聞き、ハッと顔が上げ床の間を見ると、納得の表情。お茶席のあららこららからクリスマスを感じ取りに可る子ども達へのおもてなしの心が感じられました。

今回、お茶会には2名のお客様がいらっしゃいました。東海林さんは6月の茶花にも参加してくれ2回目。そして会津さんは初めての参加です。

お茶会の締めくくりに「以前よりも上達して、ほんとに驚きました」とそれぞれの目線での感想をいただき、子ども達の成長を改めて感じ、お茶会となりました。

☆ 来月はいよいよお茶会参観。この一年間の成果としてお手前を披露し、また心豊かに過ごせるこの時間を一緒に味わっていただきたいと思っております。

【今月の床の間】

今月は、クリスマスにちなんだ掛け軸や香合を植田先生が用意してくださいました。

《茶花》

ツバキ、ロウバイ



掛け軸は、クリスマス前夜、ソリに乗って空を駆けるサンタクロースの絵。

香合も、そのサンタクロースが、降り立った姿のようです。



今月のお茶菓子は「ひいらぎ」。でも、子ども達には“雪うさぎ”に見えたようです。



【お稽古の様子】

1月のお茶会参観を前に、最後のお稽古となりました。席入りのお辞儀や立ち居振る舞い、菓子器や茶碗の扱い方など、丁寧に行っていました。



今回は、6月の茶花にいらした矢島総合支所の東海林ひろ子さんが、同じお仕事の会津朱音さんと参加してくださいました。子ども達もお二人の所作を見て、丁寧な動きを学んでいました。